

日税メールステーション特別号

～海外ビジネス情報～

あるビジネスマンの「アジア出張記。」

マレーシア編

今回はマレーシア編です。



空港からクアラルンプールまでのハイウェイからの景色

初回のマレーシア出張も、前回のシンガポール同様、経営統合の説明で行きました。

事前にマレーシアのキーマネージャから

「マレーシアのイメージは緑の国。空港から車でクアラルンプール(以下 KL)に移動するとハイウェイの両側には延々パーム農園が続く」

と聞いていましたが、まさにその通りでした。しかし KL に近づくとものすごい渋滞に巻き込まれ、東京とよく似たビル群が現れます。渋滞といえばバンコクのそれが有名ですが、KL もなかなかのもの(?)で、ホテルはすぐそこに見えているのに車が先に進まないという状況でした。

シンガポールとは少し違いますが、やはり成長して落ち着きが見える都市、というのが第一印象です。老後を過ごしたい国で筆頭にあげてくるというのも分かる気がします。イスラム圏ということもあってか中東の人が多く街を行き交い、「ああまた違う文化圏に来たのだな」ということを実感しました。



ホテルから見たクアラルンプールのながめ

■マレーシアオフィス

この時のマレーシア訪問は、この後のインドへの旅程の都合で、タイミング悪くイスラムの祝日と重なり、全スタッフと会うことはできなかったのですが、大方の社員が出社してくれました。

オフィス(スタッフルームと研修の教室が併設)の一番の特徴は、礼拝室が用意されていることです。先述のようにイスラム圏のため、男女別の礼拝用の小部屋が都合2室あり、休み時間や講義中に入れ替わりお祈りに席を立つそうです。

オフィスツアー後、シンガポールオフィス訪問時と同様、統合の経緯と目的、急激な変化は起こさないこと、日本資本が入る事のメリット、各自に期待する事、などを順を踏んで説明しました。ここでも懸念が残るようなことは特に挙がらず、ほっと胸をなでおろしました。

その後、ひとしきり **Japan** の説明をし、質疑応答をしました。私には **Malaysia** スタッフの英語はシンガポールスタッフの英語よりも聴き取りやすかった(一般的な傾向なのかは分かりませんが)ので会合はだいぶ楽でした。双方のサービスラインナップ、その内訳、業務の仕方など、色々な質問が出ました。

Japan と Malaysia との数字の比較（例：講師が月のうち何%くらい登壇するか、など）をし、Malaysia のほうが大きいと喜び、Japan では業務の幅(役割)が広いと知ると肩を落とすなど、新鮮に映る場面も多々ありました。

Japan に関する質疑応答の後、Malaysia について説明を聞きました。地続きといっても Singapore とは状況が異なります。Singapore では競合となっている他社が Malaysia では協力関係のパートナー(あるいはその逆)となっていたり、国土が広いと、教室ビジネスが成立しにくい(講師を企業に派遣することが多い)など、国による差異が多くあります。

政府の施策で研修の助成金がおりるが、政策や政権が変わるとすべて白紙になってしまうなど、政治がらみの影響についても力説していました。

こちらからもいくつか知りたかったこと（数字、業務の仕方など）を質問し、双方の理解を進めていきましたが、向こうのキーマネージャが質問に対して非常に喜んでいきます。いわく

「質問が出てきてよかった。興味を持っていていないのではないかと不安だった」とのこと。

統合後の Japan と Malaysia の縦列についての不安もあったのかもしれませんが。しかしそれ以上に「黙っていると興味を持っていないと誤解される」ということをこの一言で痛感しました。下手な英語でも意思表示をしっかりとしようと、以後務めています。

日本人は NATO(No Action, Talking Only)だと言われていて、このことはつい先ごろ日経新聞にも載ってましたが、Talk さえせず Smiling Only では目も当てられません...

■マレーシアでの食事

初回訪問時、マレーシアスタッフのご夫妻に、地元のレストランに連れて行ってもらいました。いくつもの皿にたくさんの料理が並んでいますが、見た目日本食と非常によく似ています。焼鳥、焼きそば、貝の酒蒸し、魚の焼き物、焼き飯、などなど。もちろん味は違いますが、辛すぎず、モノによっては甘みもあつたりで、一連のアジア出張時の食事の中で、特に事件(?)もなく、すんなりとおしくいただけたのがこのマレーシアでした。和食レストランにも行きましたが、よくある和食"風"レストランではなく、しっかりとした和食が出てきました。



クアラルンプールでの食事。日本人の口にあって美味しい。

この出張では、マレーシアの後にインドに行きましたが、それ以前に行ったカンボジアやシンガポールと様子が異なるのが、宗教色が強いことと、それに起因する食事への配慮です。

御存知のようにマレーシアはイスラム教徒が、インドはヒンズー教徒が多い国で、それ以外にも厳格な菜食主義をしる宗教もあります。

機内食でも、配膳前に菜食主義かどうかの確認がなされたり、肉も鶏肉が主体になっているようです(イスラムでは豚肉は食べず、ヒンズーでは牛肉を食べない)。

また、ある人から聞いたところによると、

「イスラム教の人にお菓子などの食べ物をプレゼントしないほうがよい。

原材料に豚(の成分)が含まれていることがあるので、成分が明確でない場合にはもらっても食べない人が多い」

ということでした。このあたりは、知っていないとうっかりやっしまいそうですね。

■マスクに驚かれる

何の支障もなく進んでいたはずのマレーシア出張ですが、一つ困ったことがおきました。

飛行機内は非常に乾燥している(湿度はたいてい 10%台です)うえ、建物の中もエアコンが強力に効いています。何の防御もしないでいたらとたんに喉をやられ、咳が出てきました。実はこの後長期にわたってこの咳に悩まされます。

手持ちのあらゆる薬を飲んで沈静化に務めました。薬は現地のものを買って飲むというのは怖いので、基本的に持参したもののみを服用しているのですが、この日以来、ちょっと多すぎやしないかというくらい多種かつ大量の薬を持っていくことにしています。

移動の機内ではマスクを着用して乾燥対策です。しかし、病気でもないのにマスクを着用するのは日本の文化(?)で、他国の人からすると感染性の病気にかかっているように映ります。マレーシアーインド移動の機内でマスクをしたら、隣に座っていた人がギョッとした表情で私を見てきます。とりあえず「空気が乾燥して喉が痛い」とだけ適当に伝えました。ちなみに、機内食配膳時にちょうど寝ていて、プレートをもらいはぐったのですが、その隣の人から「食べないのか？」とやさしく言われ、いたわりを受けたような感じがしました。きっと気のせいでしょう...

帰国の便では日本人乗客が多く、マスクをした人が何人もいて、安心して座っていました。こんなところでもちょっとした文化の差は出るものですね。

今回はこの移動後のインド編です。アジアに位置するとはいえ、英語圏と見なされる、また異なる文化の国です。よろしければまたお付き合いください。

【執筆者】

柳 恵太 (やなぎ けいた)

グローバルナレッジネットワーク株式会社

サービス戦略本部 本部長

ソフトウェアベンダー、メーカーにて主に移動体通信システム開発のエンジニアおよびプロジェクトマネージャを経て、2005年にグローバル ナレッジ ネットワークに入社。新サービス立ち上げや技術者育成カリキュラムの企画・開発・実施、大型プロジェクトのマネジメント等の業務を経て、2011年9月から現職。

現在は、サービス企画、マーケティング、海外展開等を推進する部門を統括。



【グローバルナレッジについて】



Global Knowledge.

グローバルナレッジネットワーク株式会社は、世界約30か国に展開するITとビジネススキルのトレーニングプロバイダーです。国内外で活躍するビジネスパーソンに向けて、ヒューマン・スキルやビジネススキル、オリジナルITトレーニングやITベンダーの認定トレーニングを提供しています。

▽あるビジネスマンの「アジア出張記。」はこちらのサイトでもご覧になれます

<http://blog.globalknowledge.co.jp/asia/>

【情報提供】 グローバル ナレッジ ネットワーク株式会社 <http://www.globalknowledge.co.jp/>